

10. ● 8月13日(土) ウペペサンケ山(1848m) 快晴

昨日とは打って変わって雲ひとつ無い快晴。ニペソツ山を再度登ることも考えたが、昨日登るのを拒否されたことに敬意を払って、今日は予定のウペペサンケ山に登った。

・朝4時、魚を焼いている匂いで目が覚めた。顔を洗って食堂へゆくとおばさんが既に朝食の用意をして迎えてくれた。納豆に海苔、生卵、何の魚だかわからない焼き魚。支払いを済ませてから挨拶もそこそこに出発。昨日泊まった駐車場のトイレで用を足し(ここのトイレは洋式、水洗)、ウペペサンケ山登山口目指して林道をぶっ飛ばした。
・糠平温泉のすぐ先の左に糠平川林道入口があり、林道の途中、8kmくらい入ったところに登山口がある。うっかりすると見過ごすような登山口で、入山届けも無い。道端に車を止めて5時半に登り始めた。昨日とは打って変わって雲一つない快晴だ。



すぐ後から釧路ナンバーの赤い車で山ギャル2人組みがやってきた。今日のウペペサンケ山はこのギャル達と一緒に登ることとなった。

・北海道の山はアプローチが長いのが一般的だが、ここも例に違わず山頂に辿り着くまでの行程が長いこと。長い樹林帯を歩き、1399ピークの手前でギャル2人組に抜かれた。結構健脚だな！急坂を登りつめ視界が開けた1399ピークでギャル達が朝食をとっていたので、今度は私が「お先に失礼！」と先に出た。

・足元も見えないような笹藪の急坂を掻き分け稜線に出ると、あとはハイマツ帯が

続き180度の展望を楽しみながら気持ちのいい尾根歩きとなる。左には富良野から大雪へと続く十勝連峰が、右を見ると遠く雌阿寒岳、雄阿寒岳と阿寒の山並みが望める。足元には今朝出かけてきた糠平湖が光って見える。絶景だ！





・ 左から合流する菅野温泉からの道から男性2人組が登ってきた。足元には可憐にコマクサが咲いていた。
釧路の山ギャルとこの男性2人組みと私の5人が、抜きつ抜かれつで山頂を目指した。

・ 9時20分、いくつものピークを越えてやっと山頂に立った。と思ったらここは糠平富士で本当の山頂はさらに尾根道を1時間近く西に行ったところにある。ただ標高も殆ど同じ尾根続きのため糠平富士をウペペサンケ山として標識柱を立てて、往復2時間節約の便宜を図ってある。



・ 昨日とは打って変わって雲ひとつ無い快晴、360度の展望が迎えてくれた。目の前には昨日途中撤退した鋭鋒ニペソツ山が巨大な山容で迫り、西には富良野岳からトムラウシ山へ続く十勝連峰がくっきりと連なりニペソツ山の後には大雪山系が見える。東に目をやれば遠く雌阿寒岳、雄阿寒岳が望まれ、足元には糠平湖、更には遠く然別湖まで見える。昨日の借りを一気に返したような思いで、山頂からの景色に酔いしれた。

・糠平富士の山頂には登山口から一緒だった釧路の山ギヤル2人と、菅野温泉ルートに登ってきた男性2人と私の5人だけ。私は2時間掛けて本峰のウペペサンケ山を往復した。ギヤルの一人と私の2人だけがウペペサンケ山の本峰まで往復し、あとの3人はわれわれが戻るまで約2時間糠平富士の山頂で待っていた。それほど無風快晴の快適な山頂だった。

・ウペペサンケ山への尾根道には小さなお花畑もあり、エゾツツジ、ヨツバシオガマ、ウサギギク、エゾクワガタ、ウメバチソウなどいろいろな花が咲いていた。



・山頂からは十勝連峰から大雪山系へと続く山々が手に取るように見渡せた。一緒に来たギヤルと写真を取り合い、みんなが待っている糠平富士へ引き返した。

・ゆっくり昼飯を食べているうち皆さん下山して行き、私一人残された。この大パノラマを独り占めさせていただき、静かな絶景を堪能し涙が出るほど感激した。ここはなんと携帯がバリ3でつながる。朋子に電話したが、この感激が全く伝わらず「伊勢原は暑い暑い」というばかり。



・まことに名残惜しかったが12時前に私も下山を始め、途中何回も立ち止まっては絶景を目に焼き付けながら14時半に無事登山口に着いた。2人の山ギヤルはこれから釧路へ帰るといって赤い車の窓から手を振って帰っていった。

・私は土幌温泉に下って汗を流した。下界は猛暑だ。数日前に来た時に屯していた三重や大阪の連中はさすがにもう居なかった。今日は土曜日なので一杯だろうと思っていた駐車場も空いていてゆっくりできた。洗濯をしてから風呂へ。風呂上がりは軽食堂で、今日の成功を祝って生ビールで乾杯！今日は夕食もここで済ませてしまおうと、焼き鳥に生ビール追加、ビーフカレーで完了。

・今日は実にいい日だった。

7時前に軽食堂を出て、そのまま車のベッドに潜り込んだ。